

本当にあった昔のお話し！！パート

2001年12月10日

今月も考える時間がなかった為、パートを書く事になってしまいました。こういう話しを書くたびに一人、二人と私の前から去って行くような気が……。この話しは、いろんな人に話したので聞いた人はゴメンナサイ。

昔、冬になると「プラザビル」と「グリーンビル」の間は舗装されていなかったの、ポコポコでツルツル！！買い物袋を両手で抱えながら「かじのビル」から出て来ると5メートルくらい前に、毛皮のコートを着て、ツンとすまして気取って歩いている女がいたのね。

(道子ちゃん心の声)「たいしたい女でもないのに、なに気取ってんだ？転べばいいのに」と、思った途端にスッテ〜ンで転んだもんだから、そりゃ〜もう大笑いサ。相手はキツと私を睨み付けながら立ち上って、足場の悪い道を慎重に歩いて、私とすれ違って行ってしまった〜。

(道子ちゃん心の声)「ざま〜みろっ！！」と、話しがここで終われば、道子ちゃんにとってはハッピーエンド！！

氷の上をピンヒールでヨチヨチ歩いていた道子ちゃんたら、道路を渡る直前にツルツと滑ってしまって、キヤ〜〜という悲鳴と共に、抱えていた買い物袋は空中へ……。袋の中身は散乱し、ストッキングは破れ血がにじんでいたけれど、痛いだとか格好が悪いだとか、そんな事はどうでもいい、それよりさっきの女！！と思い、振り返って見ると「かじのビル」へ入る直前で、こっちを見ながらニヤリ。

道子ちゃん、ショック！！道さえ良ければもっと遠くに行ってるはずなのに、私が静かに転べば気付かれなかったのに〜って、くやしくて思わず「ちっきじょう！！」と叫んでしまった。

近くにいた親切なおばちゃんが、一緒に袋の中身を拾ってくれたんで、気持ち切り替えて、満面の笑みで「ど〜もありがとう！！」って言ったら、おばちゃんニッコリ笑いながら「また転ばないようにね」って、走って行ってしまった。(おばちゃん、何で走れるんだ？氷の上を...)

イヤな女に会ったり(きっと向こうもそう思っている)、優しいおばちゃんに会ったり、何やら気持ちごとっても忙しい日でした。

「人を呪わば穴二つ」とは、ちょっと違うかも知れませんが、「家政婦は見た」じゃなくて、神様はやっぱり何処かで見ているのかも???

みなさんも、ど〜ぞ気を付けて！！
こんなくだらない話しで良ければ、又お付き合い下さい。

ボランティアの輪・あんだんて 島 道子